

埼経協ニュース



12・1

'18~'19 月号

初春を迎え、会員の皆様に謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

さて、天皇陛下のご退位により本年4月30日に「平成」は幕を閉じ、翌5月1日より新元号がスタートします。この記念すべき年の初めにあたり、「平成」の時代を振り返ってみますと、バブル経済の崩壊、金融危機・リーマンショックの発生などに代表される未曾有の経済危機、阪神淡路大震災、東日本大震災などの自然災害、そしてオウム真理教の地下鉄サリン事件、米国の同時多発テロなどの悲惨なテロ等が強く印象に残っています。

新春所感

会長 上 條 正 仁

ここで来た新元号の時代を展望いたしますと、2019年のラグビーワールドカップ、2020年の東京オリンピック

ク・パラリンピック、そして世界からアスリート20万人が来日するワールド・マスタース・ゲームズ2021というビッグスポーツイベントが日本で開催され、加えて2025年には大阪万博、2026年には愛知県でのアジア大会開催も決定いたしました。

日本は、これまで「失われた20年」と揶揄され、少子高齢化、人口減少など経済社会面での難題に遭遇し、国民の意識もややもすると、「後ろ

向き、内向き、下向き」の自信喪失気味であった人が多かったような気がしています。

私が国民意識を把握する上で、注目している調査に昭和39年から毎年実施している内閣府の「国民生活に関する世論調査」があります。この調査の中で現在の生活に対する満足度を聞いた調査で満足（満足している+まあ満足している）の割合が平成30年度調査で74.7%と3年連続して過去最高を更新しています。この理由は、ここ数年の雇用・所得環境の改善等を背景にしたものと考えられますが、国民の意識も「失わ



れた20年」から脱却し、徐々に明るさを増してきているものと想定されます。

皆様ご存じのとおり、フランスの著名なモラリスト、アランの言葉に「悲観主義は気分属し、楽観主義は意志に属する」という言葉があります。世界が羨むビッグスポーツイベントが連続して開催される「ゴールデン・スポーツイヤーズ」や大阪万博等を起爆剤に新元号の時代を希望に満ちた年とするため、「病も気から、景気も気から」という言葉に代表されるように、私たちは「前向き・外向き・上向き」にマインドを

リセットする必要があるような気がいたします。

ここで足許の経済情勢に目を転じますと、2018年7~9期の実質GDPは2四半期ぶりのマイナス成長となったものの、主因は自然災害による需要低下であり、10~12月期は年率2%を少し上回る回復基調に戻るとの見方が主流となっています。好調な企業収益を背景にした雇用・所得環境が消費を支え、設備投資も底堅く推移しており、国内景気の回復は、1月に戦後最長を更新するとの見方が主流となっています。ただ、世界経済の不安を映すように輸出が鈍りつつあります。米国発の貿易摩擦や中国景気の減速など海外リスクが膨らみ、企業主導の外需に頼ってきた景気拡大の持続力が試される局面を迎えています。

こうした状況の中で、2019年の日本経済を展望いたしますと、10月の消費税率引き上げの影響はあるものの、各種の所得支援策が下押し圧力を抑制、主要経済予測機関では、2018年見込みとはほぼ同水準の1.0%程度の成長を予測しており、穏やかな景気拡大が続くものと見込まれます。

こうした情勢下、今後の企業経営を考える上で、2点申し述べさせていただきます。まずは「デザインマネジメント」についてです。

昨年10月の本会の第5回トップセミナーで「デザインマネジメント」をテーマに取り上げましたが、現在世界の有力企業が企業価値向上のため、戦略の中心に据えているのがデザインです。デザインとは、企業が大切にしている価値を実現する営み

であり、個々の製品の外見を好感度の高いものにするだけではありません。顧客と企業との接点を持つあらゆる体験に、その価値や意思を徹底させ、それが一貫したメッセージとして伝わることで、他の企業では代替できないブランド価値が生まれます。また、デザインはイノベーションを実現する力になるともいわれています。デザインは、人々が気づかないニーズを掘り起こし、事業にしていくなみであるからです。

このように、ブランド価値を高め、イノベーションの実現を通じ、企業価値の向上を実現するため、デザインを貴重な経営資源として活用していく経営が「デザインマネジメント」です。

まだまだ、多くの日本企業では、デザインマネジメントを荒唐無稽と考えているかもしれません。しかし、アップルやダイソンなどでは経営の中枢にデザイナーが参画し、大きな成果を出しています。日本でも、マツダ、日産自動車、良品計画など、デザイナーを経営の中枢に参画させ、成果を上げる企業が出てきています。いきなりデザイナーを採用することは無理だと思いますが、是非とも「デザインマネジメント」に関心をお持ちいただき、まずは経済産業省と特許庁が昨年5月に公表した「デザイン経営」という報告書をご覧いただくことから始めていただければと思います。

なお、弊会でも今年もトップセミナーでデザインマネジメントを取り上げる予定ですので、その際は是非ともご参加をお願いいたします。2点目は、「仕事を「頑張れから楽